

まちづくり交付金 事後評価シート
中津市三保地区

平成22年3月

大分県中津市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	中津市	地区名	中津市三保地区			面積	24ha				
交付期間	平成18年度～21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	365百万円	国費率	0.408						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		道路事業(古森3号線、福島洞ノ上線、道路修繕)、高次都市施設(三保市民交流センター)										
	提案事業		地域創造支援事業(隣保館改修、三保公民館解体・整地)										
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業		基幹事業		なし								
			提案事業		地域創造支援事業(老人憩いの部屋建設事業)		地域住民との協議の結果、市民交流センターで代用できることが判明したため削除		事業を中止したが、新たに整備する市民交流センターで機能を代替できるため、目標・指標に影響なし。				
新たに追加した事業		基幹事業		地域生活基盤施設(三保小学校体育館)		避難場所の耐震化を進め地域の安全性向上を図るため、平成19年に計画変更して追加		「耐震化率の増」を指標として新たに追加した。					
		提案事業		地域創造支援事業(三保小学校体育館改修事業) 事業活用調査(事業効果分析に関する調査)		小学校体育館:耐震化に併せ、避難所としての衛生環境を確保する改修工事を追加		「耐震化率の増」を指標として新たに追加した。					
交付期間の変更		当初		平成18年度～22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし					
		変更		平成18年度～21年度									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度		目標年度		モニタリング		評価値				
	指標1	交流センターのべ利用者数	人/年	5,676	H16	11,750	H21		11,725	△	ありなし●	住民との協議により住民が使いやすい施設が完成したことなどにより目標値を達成	平成22年6月
	指標2	隣保館の利用率の増	人/年	4,181	H16	4,600	H21		6,810	○	ありなし	エレベーター設置により高齢者・障害者の利便性が向上したこと等により目標を達成	平成22年6月
	指標3	地区内の交通事故の減	%	60	H16	40	H21		27	○	ありなし	通学路に安全な歩道を整備したことにより児童の交通事故に対する安心感が向上	
	指標4	耐震化率の増	%	10	H18	50	H21		50	○	ありなし	避難場所の新設や改修により避難場所の耐震化率が向上したことにより目標を達成	
指標5										ありなし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度		目標年度		モニタリング		評価値				
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	隣保館のエレベーターができたことにより、施設を利用する老人から施設を利用しやすくなったと大変喜ばれている。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス		交流センター整備に伴う住民との意見交換会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 公民館の管理運営について、定期的に意見交換を行っていく。		
	持続的なまちづくり体制の構築		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

中津市三保地区(大分県中津市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
基本方針・・・区域内の道路及び生涯学習・公共の福祉の場としての三保市民交流センター(仮称)の整備により地域の活性化を図るとともに、緊急避難施設の耐震性強化を行い住民の安全・安心な環境を確保する。 1. 周辺の自然環境に調和した住環境の整備及び三保小学校体育館改修工事により、耐震強化を図り安全・安心な居住環境を整備する。 2. 三保地区の中心地に三保市民交流センター(仮称)を整備し、市民交流を図るとともに生涯学習及び福祉利用の増進をも促進する中核施設とする。 3. 古森隣保館にエレベーターを設置し、利用者の利便性を向上し利用を促進する。	交流センターのべ利用者数	単位:人/年 5,676 H16	11,750	H21 11,725
	隣保館の利用率の増	単位:人/年 4,181 H16	4,600	H21 6,810
	地区内の交通事故の減	単位:% 60 H16	40	H21 27
	耐震化率の増	単位:% 10 H18	50	H21 50
		単位: H		H



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習や福祉施策の中心となるバリアフリー対応の交流施設の整備と周辺道路の安全性向上により、高齢者も利用しやすい環境が整い、交流施設の利用者が増加し、地区住民の活性化が図られた。引き続き、三保小学校周辺の交通安全対策が求められる。 十分な駐車スペースが確保された三保交流センターの整備や、三保小学校の耐震化に併せたトイレ改修により、市民の交流・避難場所の機能充実が図られた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 整備された施設を利用する多様なソフト事業の充実や、施設の認知度の向上等により、さらなる利用促進を図る。 安全な歩行空間の確保や交通安全活動の推進などによる通学路の交通安全性の向上が求められる。